



法政大学における 教学マネジメント

～組織の力で教育力を高めるために～

法政大学総長 田中優子

「マネジメント」の考え方

- 教学マネジメント

教育環境

- 財政マネジメント
- 人事マネジメント
- ファシリティ・マネジメント

これらを一体として捉えるガバナンスのありかたが重要。

教学マネジメントだけ切り離して論じていいのか？

法政大学のガバナンス

- 総長＝理事長＋学長
- 理事→常務理事＋理事
- 常務理事→教学を分担して担当する常務理事＋教学を担当しない常務理事＋付属校担当理事
- 教学を分担して担当する常務理事＝副学長を兼ねる

「理事長・学長分離論」でいいのか？

長期ビジョン「HOSEI2030」

2014-5年度策定委員会

- 財政基盤検討委員会
- キャンパス再構築委員会
- ダイバーシティ化委員会
- ブランディング戦略会議→教職員による、
度重なるヒアリングとワークショップを
経て大学憲章を制定

HOSEI 2030推進本部



将来を見据えた長期ビジョン

長期ビジョン「HOSEI2030」の策定

2030年の法政大学のあるべき姿を構想し，その目標に向けた，かじ取りを開始

2014年4月

HOSEI2030策定委員会

- ・ 財政基盤検討委員会
- ・ キャンパス再構築委員会
- ・ ダイバーシティ化委員会
- ・ ブランディング戦略会議

2016年3月
（ビジョン）最終報告提出

2016年4月
16の
アクションプラン
作業部会発足

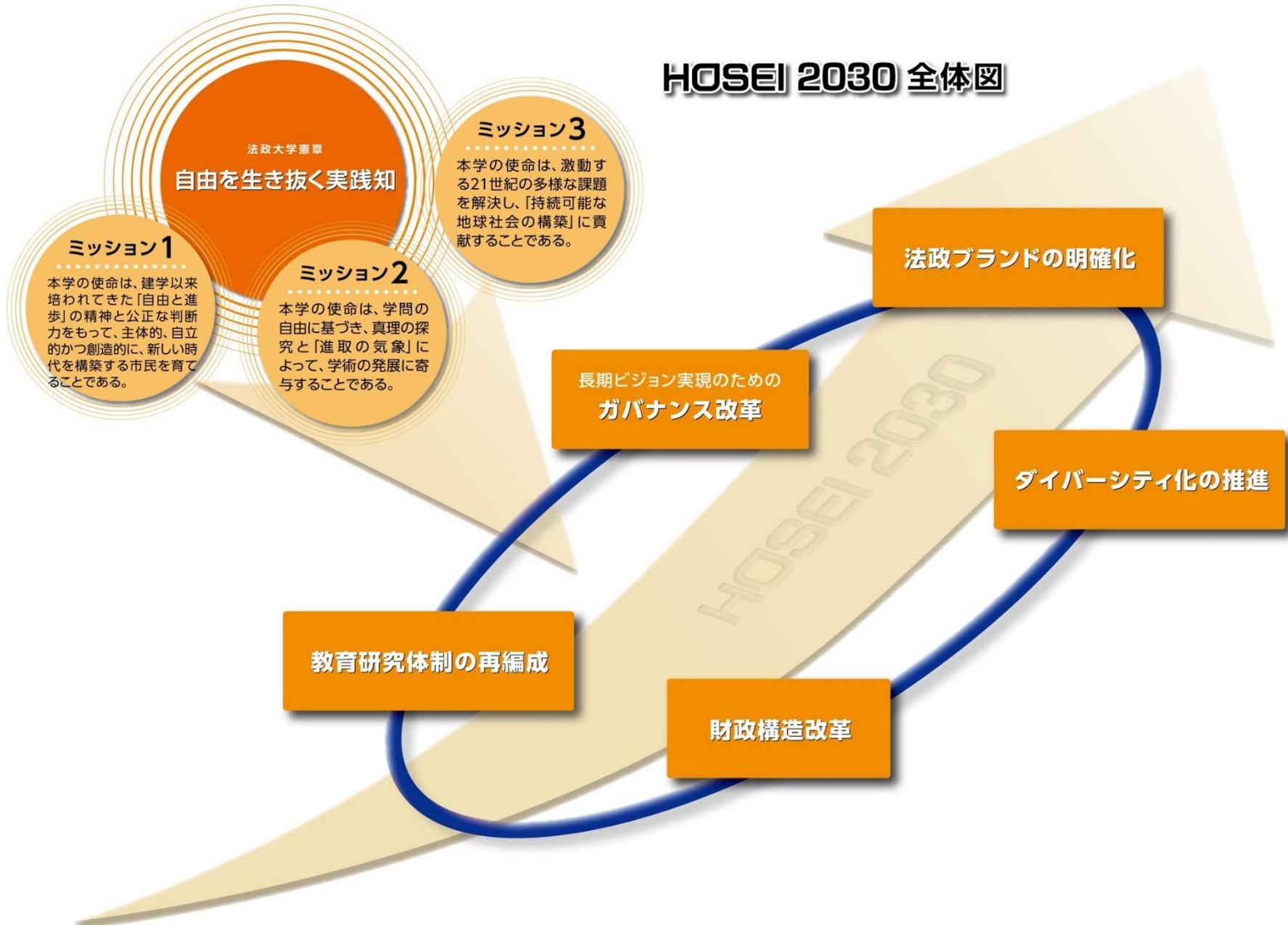
2017年3月
アクションプラン報告提出

2017年4月
HOSEI2030推進本部設置/ビジョンの実現へ

「HOSEI2030最終報告」（2016年4月）で示した 長期ビジョン全体構想の骨子（抜粋）

- (1) 本学の**ブランド**をより明確化し、社会的支持を拡げるとともに社会的評価を高める。
- (2) **多様性（ダイバーシティ）**を一層推し進め、性別、国籍、年齢などにかかわらず、多様な学生・教職員の活躍の場が広がり、それぞれの能力が飛躍する大学を実現する。
- (3) 大学3キャンパスの特性を活かした**キャンパス再構築**を図り、多摩キャンパスの既存学部や教育・研究組織の一定部分を、市ヶ谷キャンパスないしはその近隣に集約する。
- (4) **財政構造を改革**し、中長期的視野で財政規律を維持するためのシステムを構築する。それとともに、長期ビジョンの実現に必要な**財源を確保**する。
- (5) 改革期をリードする実行力ある大学運営体制ならびにHOSEI2030推進体制を整備し、**教授会自治を基盤とした大学運営**を維持しつつ、適切な手続きとテンポで**全学的改革**を実施する。

HOSEI 2030 全体図



法政大学憲章
自由を生き抜く実践知

ミッション3
.....
本学の使命は、激動する21世紀の多様な課題を解決し、「持続可能な地球社会の構築」に貢献することである。

ミッション1
.....
本学の使命は、建学以来培われてきた「自由と進歩」の精神と公正な判断力をもって、主体的、自立的かつ創造的に、新しい時代を構築する市民を育てることである。

ミッション2
.....
本学の使命は、学問の自由に基づき、真理の探究と「進取の気象」によって、学術の発展に寄与することである。

法政ブランドの明確化

**長期ビジョン実現のための
ガバナンス改革**

ダイバーシティ化の推進

教育研究体制の再編成

財政構造改革

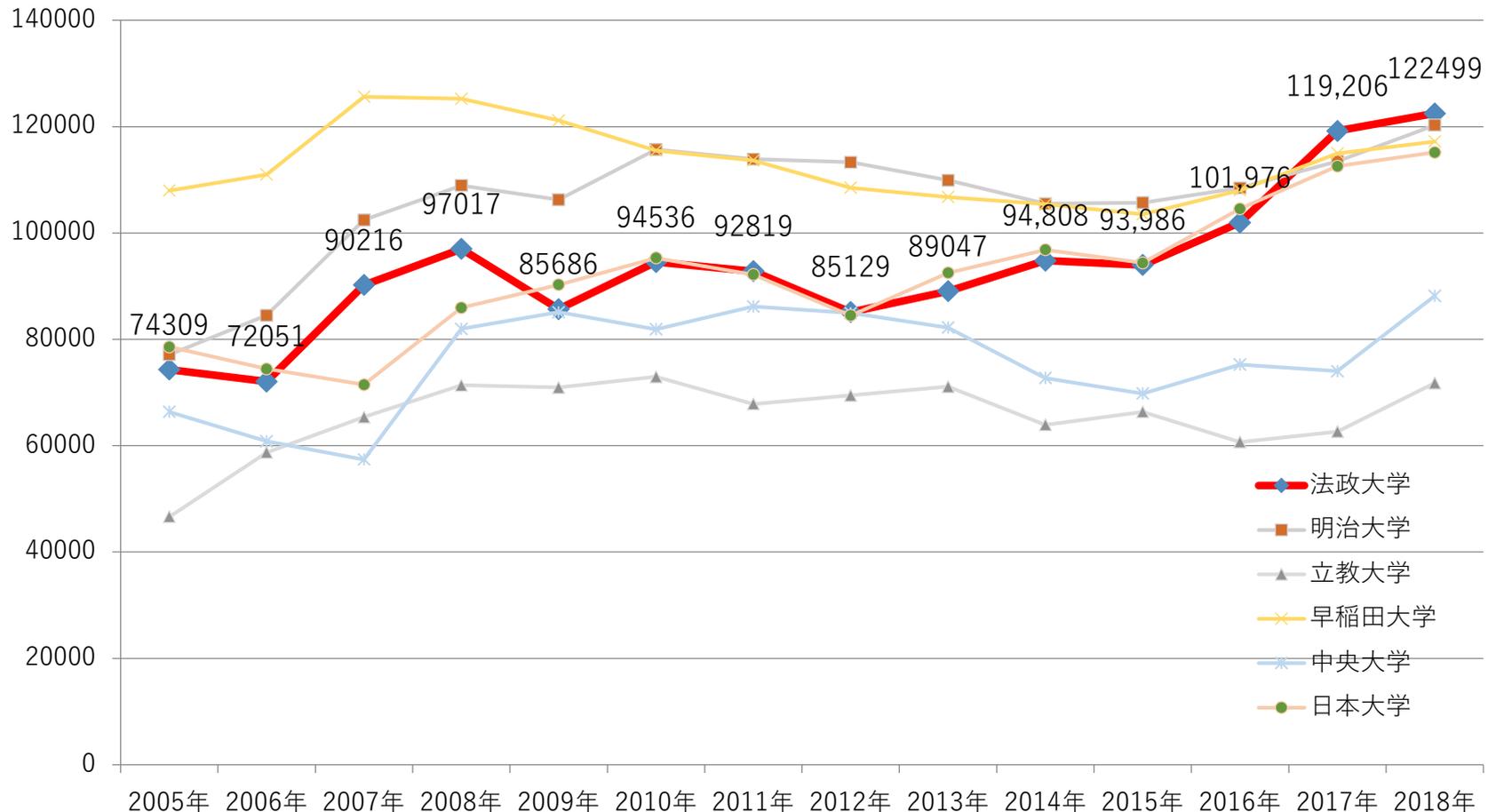
2016年度16のアクション・プラン作業部会

- 1 大括り化
- 2 授業科目のスリム化
- 3 大規模授業のオンライン化システム構築
- 4 アクティブ・ラーニング / 実践知育成の学び
- 5 社会人の学び直し・市民教育
- 6 テニユア・トラック制度化
- 7 持続可能社会構築に向けた研究体制ト
- 8 若手育成のための大学院－研究所連携
- 9 財政規律のシステム構築
- 10 財政支出削減
- 11 ダイバーシティ化推進
- 12 校友ネットワークの世界展開
- 13 法政ミュージアムの実現
- 14 法政スポーツ強化
- 15 附属校の将来ビジョンプロジェクト
- 16 ブランディング推進チーム

常務理事会の取り組み：キャンパス再配置、中長期財政支出削減策全体を「HOSEI 2030策定委員会」がとりまとめた。

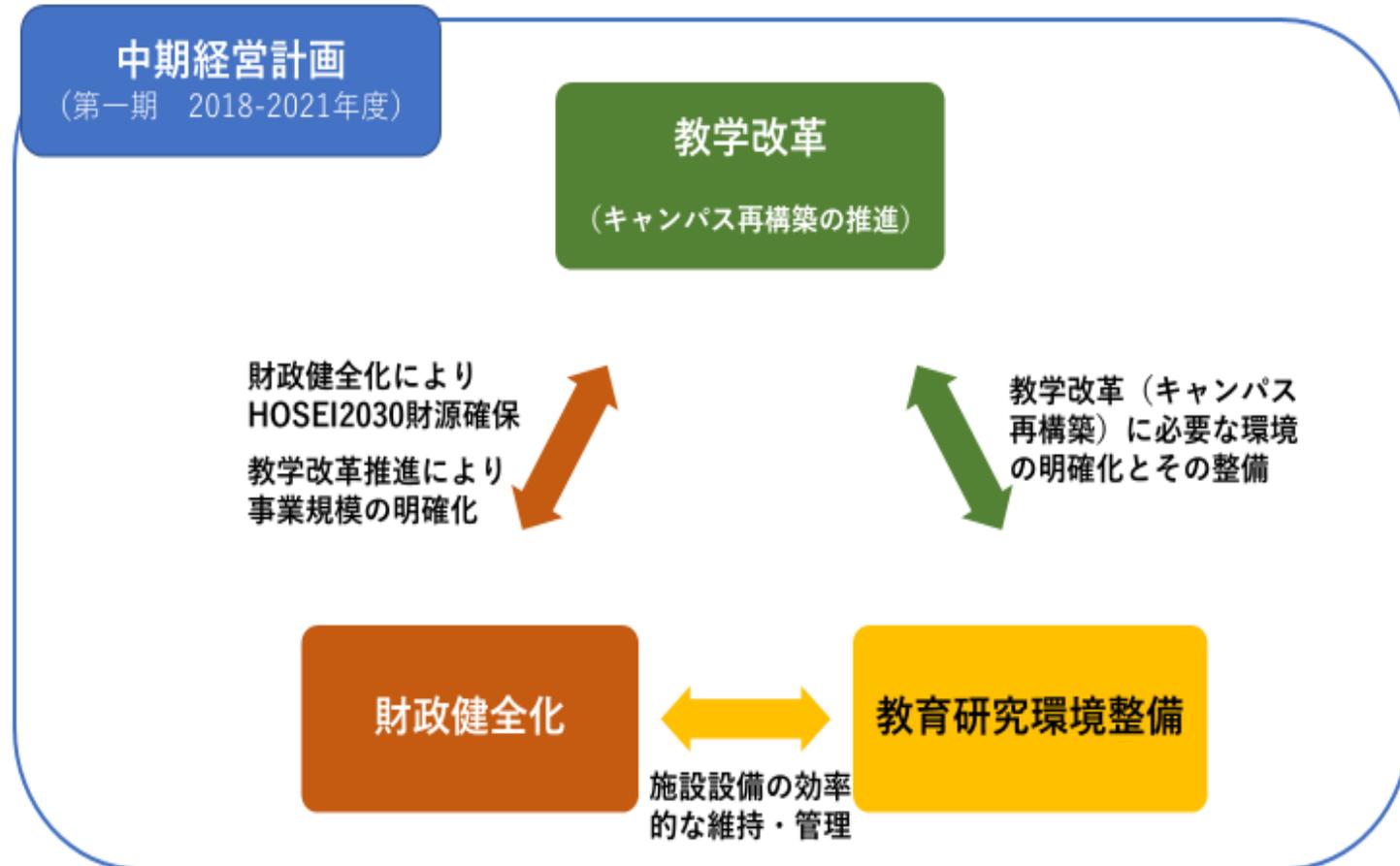
本学への志願者数 (122,499人)

出所: 大学通信社

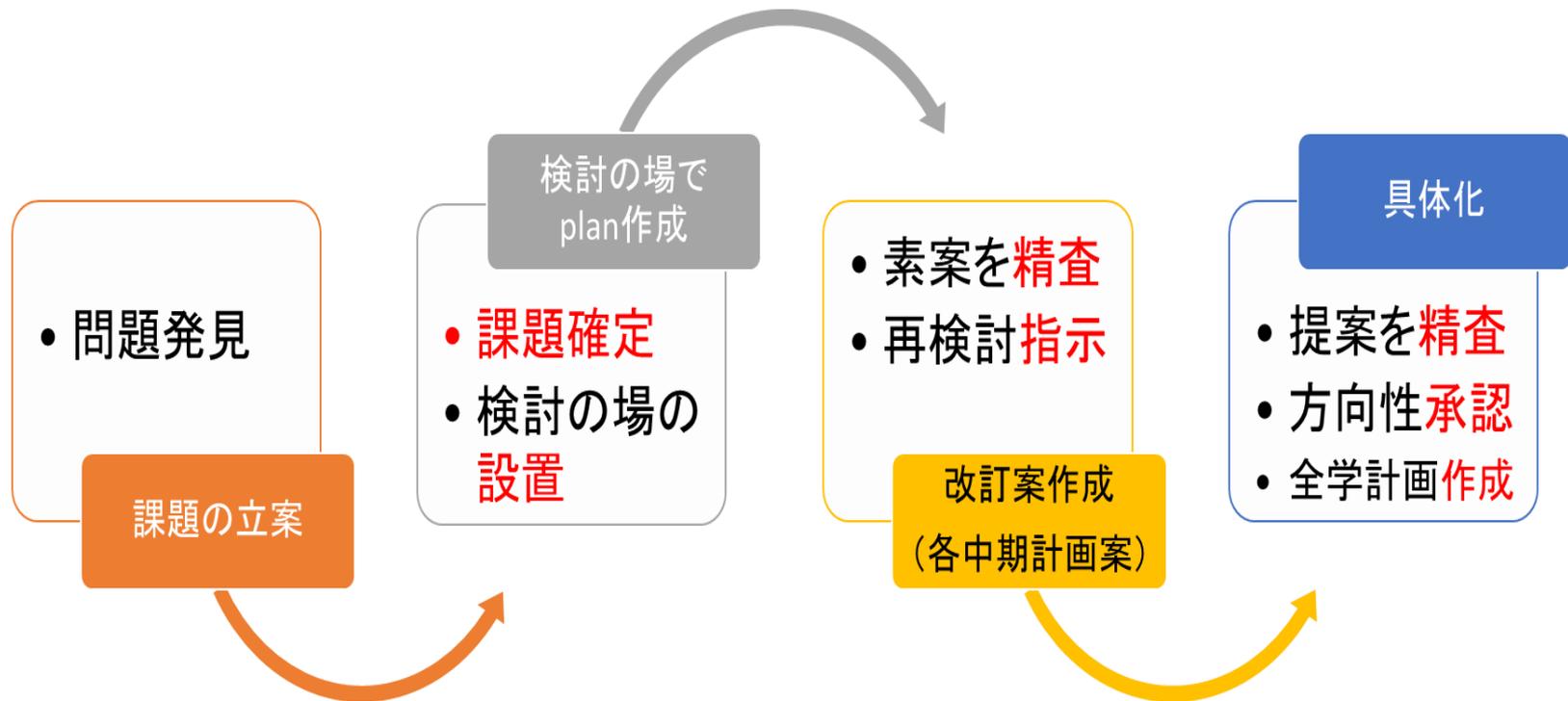


中期経営計画

中期経営計画（第一期）におけるHOSEI2030の柱とその連関



中期経営計画策定プロセス



法政大学の教学マネジメントの特徴1

- ・ 各学部、研究科が分権的な意思決定権を確保することによって、固有の改革ニーズに応じた多様な対応策を迅速に実現する。
- ・ 必修としての海外留学(SA)、自治体推薦入試による地域づくりを担う人材養成への取組、海外大学院との提携によるダブルディグリープログラムなどが、このような分権的意思決定を基礎として実現されてきた。
- ・ 多様な取組は、あらためて全学的な教学の理念に照らしてとらえ直し、教学理念との整合性を確保することと、他学部、他研究科にとっても有益な普遍的意義を有する取組については、学内での普及を推進していくことによって、全学的な教学理念の実現のためのしくみに練り上げていく。

学部独自のSA・海外研修制度

SA実施学部

学部	留学先	学部	留学先
文学部英文学科	アイルランド・アメリカ	理工学部	アメリカ・アイルランド
経営学部	アメリカ・オーストラリア	生命科学部	アメリカ・アイルランド
G I S	アメリカ・カナダ イギリス・ニュージーランド	国際文化学部	イギリス・アメリカ・オーストラリア 中国・カナダ・スイス・ロシア フランス・スペイン・韓国
社会学部	アメリカ・カナダ・中国	キャリアデザイン学部	オーストラリア・ニュージーランド
経済学部	アメリカ・カナダ イギリス・オーストラリア等		

海外研修制度実施学部

学部	留学先	学部	留学先
法学部国際政治学科	イギリス オックスフォード大学	人間環境学部	オーストラリア・東南アジア 中国・ヨーロッパ 等
文学部哲学科	フランス	現代福祉学部	スウェーデン 等
社会学部	ドイツ・フランス	スポーツ健康学部	アメリカ

法政大学の教学マネジメントの特徴2

学部長会議・研究科長会議: 教学に関する全学的な経常的な会議体。教学単位の責任者と教学事項を所掌する常務理事(副学長)が出席する。個別的な取組の全学的な情報共有が図られ、必要な場合には全学的な制度整備や資源配分についての調整が行われる。

グローバル戦略本部・HOSEI2030推進本部: 学部長と常務理事が出席する全学的な会議体で、進捗管理と戦略方針の審議を経て、全学的な教学マネジメントに展開される。SAの全学への展開、ダブルディグリープログラムの他研究科、他学部への展開など、個別の教学単位から発した改革の全学への普及が実現されてきた。

法政大学の教学マネジメントの特徴3

大学憲章やミッションの柱として謳っている「持続可能な社会の実現」への貢献についても、当初は個々の学部がそれぞれのニーズに応じて展開してきた科目の中から、他学部に公開可能なものを選択して「サステイナブルオープン」科目群を編成してきた。そのうえで総長ステートメント「法政大学におけるSDGsへの取組について」を発することを通して、全学の教育、研究、社会貢献において、SDGsの達成に向けた貢献を宣言し、学内において取り組まれている多様なSDGs関連の活動を整序し、シナジー効果を発揮していけるように展開している。

法政大学憲章

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあって、
権利の意識にめざめ、法律の知識を求める
多くの市井の人びとのために、
無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、
人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、
なにものにもとらわれることなく公正な社会の実現をめざす
「進取の気象」とを、育んできました。

建学以来のこの精神を受け継ぎ、
地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

その使命を全うすべく、
多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、
社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす
自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく
健全な批判精神をもち、
社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、
世界のどこでも生き抜く力を有する
あまたの卒業生たちと力を合わせて、
法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。



社会に対する 法政大学の約束

ブランド = 約束

憲章制定のプロセス

外部からの要請をただ退けることも、またそれにとらわれることもなく、
また内部における矛盾から目をそむけることもなく、
法政大学がその原点と方向性を見失わず、
大学に集う全ての人々とともに、教育と研究の理想を創造的に追求し、社会的責任を果たしていくために、
ここに法政大学憲章を制定することとした。

大学憲章の構成

- 1、発祥＝建学 3人の20代の、法律家の若者たち
- 2、歴史を経た3つのキーワード：自由、公正、進取
- 3、未来に向かう3つの対（つい）
 - 地域・世界
 - 課題解決・実践知
 - 生き抜く力・持続可能

法政大学の教学マネジメントの特徴・まとめ

- 1、各学部、研究科が分権的な意思決定権を確保し、分権的意思決定を基礎として様々な施策を実現する。
- 2、全学的な会議体で進捗管理と戦略方針の審議を経て、分権的な意思決定を全学的な教学マネジメントに展開する。
- 3、憲章、ビジョン、総長声明など全学の共有事項は、個々の学部が展開してきた科目から共通の理念のものをすくい上げ、全学で具体化する。

法政大学 内部質保証システム 組織図

総 長

点検評価企画委員会

全学質保証会議

自己点検委員会

- ・全学教学点検部会
- ・教学部門
(学部・研究科・研究所)
- ・事務部門

大学評価委員会

- ・全学教学評価部会
- ・教学部会 (7部会)
- ・事務部会
- ・経営部会
(大学評価G・国際化評価G)

適用範囲および各運用単位
15学部1機構、15研究科
通信教育部、3インスティテュート、15研究所、8
事務組織
注：専門職大学院は別途実施

質保証委員会
(学部・研究科内)

(自己点検・評価体制)

理事会
常務理事会

学部長会議
研究科長会議

HOSEI2030推進本部会議

研究総合本部会議

グローバル戦略会
議

部長会議

入試委員会

学部・研究科・インスティテュート・研究所・事務組
織等

学部

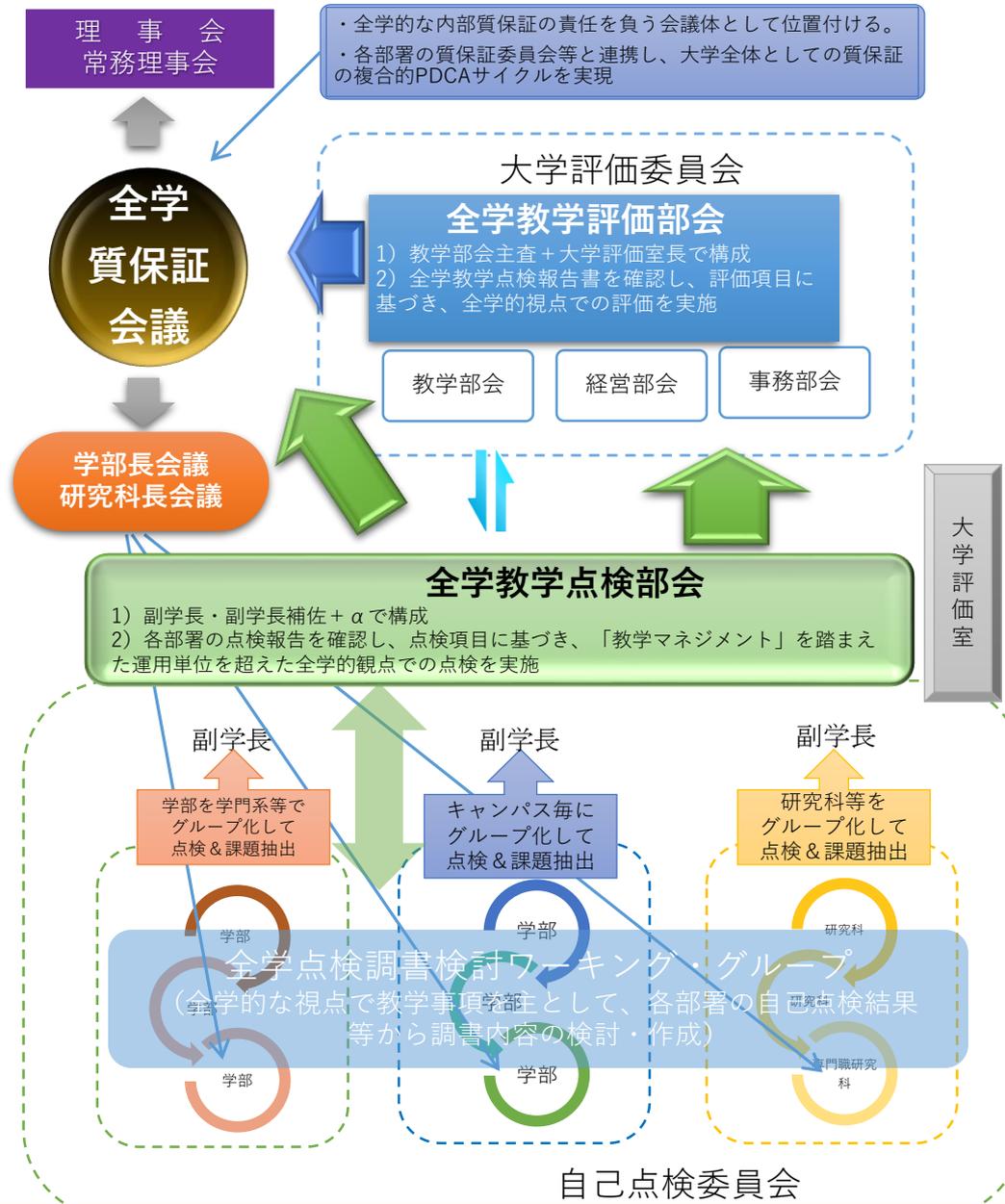
研究科

研究所

事務局

(教育研究執行体制)

全学的観点での内部質保証検証プロセス イメージ



自己点検委員会

学部

学部

研究科

研究所

部局内

•達成度評価と
改善策策定
(執行部)

執行部による
点検・評価と
改善

•現状分析
•目標設定
(執行部)

教授会執行部
による目標の
設定

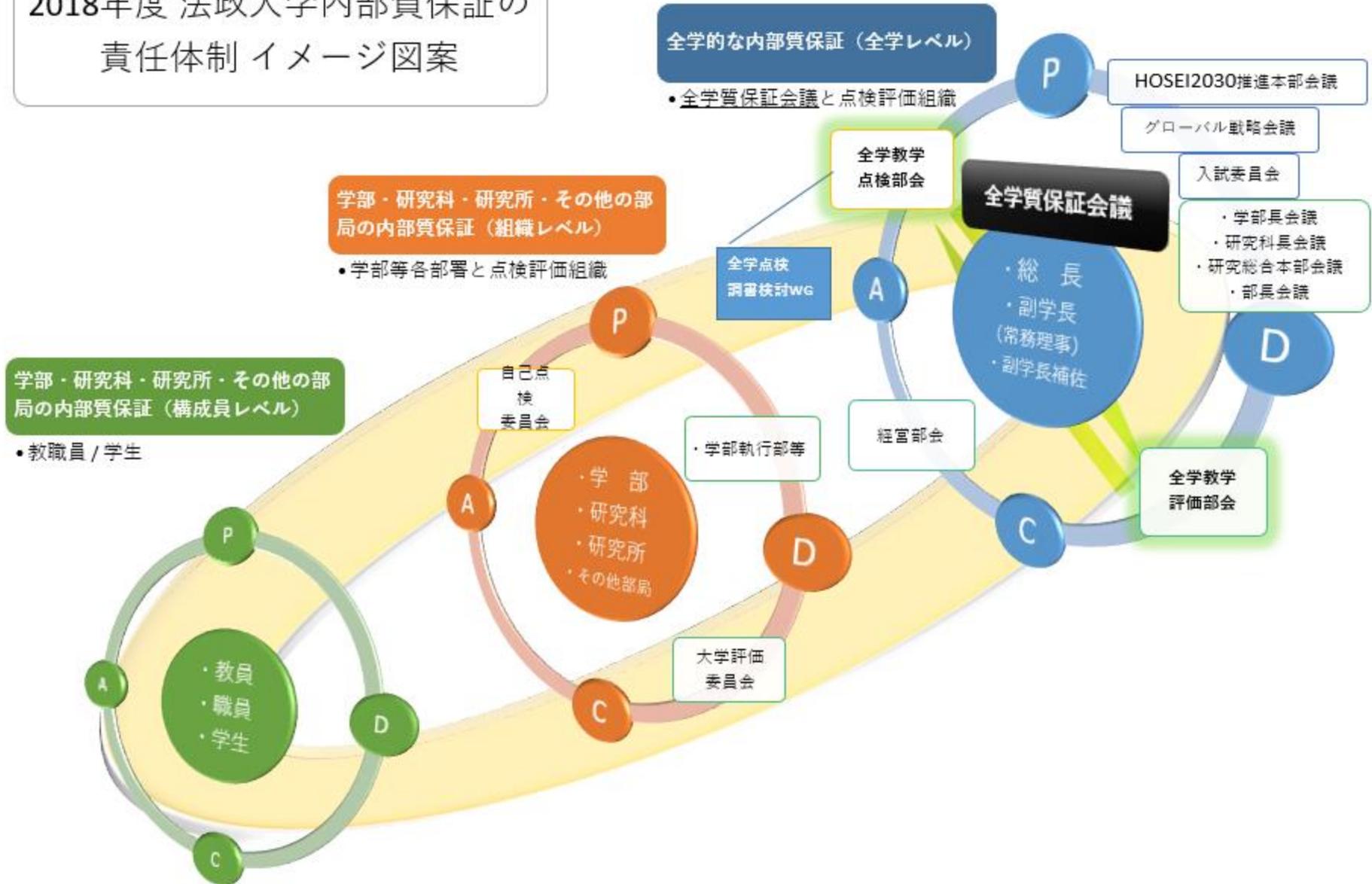
質保証委員会
による点検・
評価・提言

•適切性の
チェック
(質保証委員会)

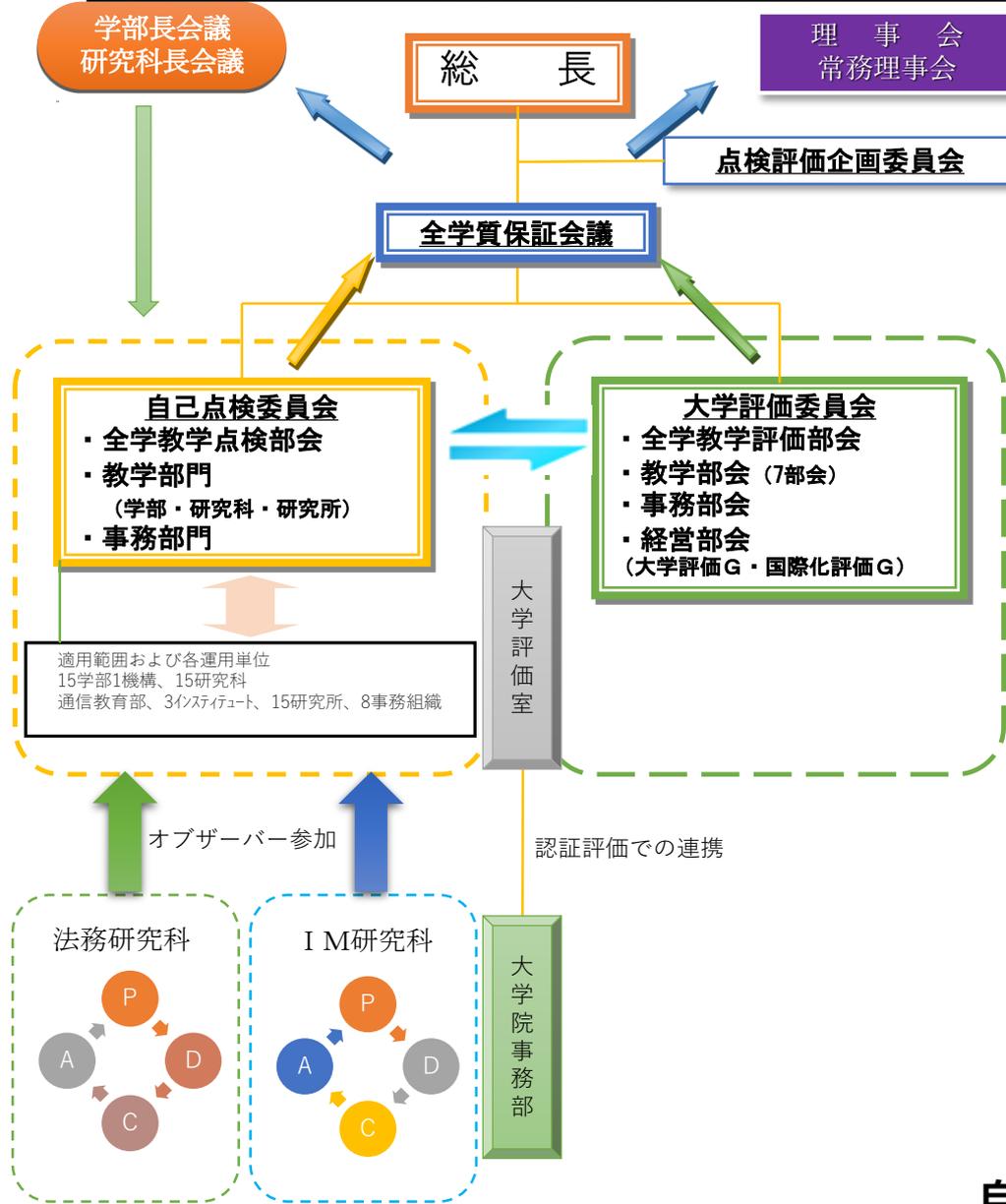
執行部による
実行

•計画実行
(執行部)

2018年度 法政大学内部質保証の 責任体制 イメージ図案



専門職大学院における自己点検・評価対応案イメージ図



法政大学の教学マネジメント 進行中の具体例

授業科目のスリム化

「単に総体としての授業科目を削減することではなく、既存の科目を見直し、学部共通で展開する科目を含む新たな教育リソースを生み出すこと」を目的としている。そして、当面の目標として過少受講人員科目のスリム化ルールの実施が提言され、そのための準備が現在進められている。したがって、過少受講人員科目のスリム化は、授業科目のスリム化の導入段階に位置づけられるものであって、本来の目的に直結した科目の見直しがこれに続くべきものである。

法政大学の教学マネジメント 進行中の具体例

新たな教育リソース

コマ数の枠、教室数だけではなく、その総量には一定の限度がある教員の教育エフォートも含まれていることをあらためて確認した上で展開を検討する必要がある。授業科目の見直しはカリキュラム編成と密接に関連。所与のリソースの枠内においてどの ように見直すかは、教授会を中心とする教学の判断に委ねられるべきもの だが、全学的な教学改革の方向性を共有した上でその検討が進められるべきである。

法政大学の教学マネジメント 進行中の具体例

カリキュラムのありかたの検討方法

- ・科目の細分化は行きすぎていないか?
- ・用意すべき選択肢のバリエーションの絞り込みは適切になされているか?
- ・新規科目設置の際に既存科目との整理はなされているか?
- ・卒業所要単位を取得する中で、すべての学生にとって一定の柱となる科目群を履修させられる「骨太」なカリキュラムになっているか?
- ・個々の科目への単位数の配分は適切か?(通年時代の感覚で4単位を自明の配分と設計していないか?)
- ・「あるに越したことはない」科目であるとしても、学生が卒業所要単位内で履修する範囲内に必ず位置づける必然性があるか?

法政大学の教学マネジメント 進行中の具体例

教育環境と教学

- ・フル・セメスター制を可能にする「資源の余裕」確保策として教育効果の観点からは、同一科目を週に1回よりも2回の頻度で受講する方が望ましい。かつて週1回通年で開講していた4単位科目をI・IIと分割するのではなく、週2回1セメスターで4単位科目を完結させる授業形態を原則とすることに、将来移行する可能性を確保すべきではないか？
- ・そのためには、教室の割付の余裕がある程度必要(たとえば全教室の平均稼働率を8割程度とする)であり、スリム化とオンデマンド化の推進によってその余裕を生み出すことが求められている。

日本の大学の課題

- 1 単位の実質化による、社会のなかでの学位、資格の価値の向上
- 2 単位制度の本来のメリットである、多様性と自由選択を活かす方法
- 3 生涯学習(リカレント教育、教育の継続)による高度知識基盤社会の実現
- 4 学生や学習地域(国、地域、組織)の流動化にともなう国内および国際的互換性、大学間協力の推進
- 5 多様化する学生の能力を伸ばすための制度設計と組織編成

法政大学の ブランディング・プロセス

本学ブランドのあるべき姿

①本学としての意思

本学の使命・存在意義/教職員の意思/経営陣の意思

②本学の強み・リソース

③ステークホルダーからのニーズ

学生ニーズ/OB,OGニーズ/社会ニーズ

④市場における機会

市場環境・競合状況

法政大学憲章の制定およびブランディング・プロセス

ブランド提供価値規定の検討プロセス

(外部視点
内部視点)
基礎分析

2014年9月~2015年1月頃

デスクリサーチ

(学内外視点を通じた法政大学の現状分析)

2014年9月~11月頃 / 2015年5月~6月頃

キーパーソン・ヒアリング



- 総長
- 理事・役員
- 学内教職員
- 卒業生 (OB/OG) 等

2014年12月頃

学内ブランディング・アンケート

- 現在の法政大学の学風
- 学生のイメージ・印象
- 輩出すべき学生像
- 理想的な法政大学像 等



2015年1月,5月,6月頃

ワークショップ

(戦略会議WS/プレワークショップ/市ヶ谷/多摩/小金井/付属校 計7回)

ブランド提供価値規定

提供価値規定

キーパーソン・ヒアリング

総長、理事・役員、学内教職員、卒業生（OB/OG）等 17人



学内キーパーソン
社会が信頼できる法政大学ブランドを／田中総長



学内キーパーソン
大学一丸となって学生の成長を支援したい／近藤清之 教育支援統括本部長



有力OBOGの視点
他大学にない課題解決のための学部や学科が欲しい／白井明子さん



学内キーパーソン
社会のニーズに敏感な「社会貢献する大学」へ／児美川孝一郎キャリアデザイン学部教授



有力OBOGの視点
総合大学の特性を活かして世界水準の教育を／田牧聡志さん



New 学内キーパーソン
社会的課題解決のための研究教育のある大学へ／役員インタビュー



学内ブランディング・アンケート

■法政大学の学風

教員・職員・学生がともに「伝統のある」「自由な」を、現在の法政の学風としてあげました（数字は「当てはまる+やや当てはまる」と答えた割合、以下同じ）。

教員	<ul style="list-style-type: none">・自由な (82.9%)・伝統のある (81.2%)・庶民派的な (71.4%)・スポーツの強い (64.6%)
職員	<ul style="list-style-type: none">・伝統のある (93.2%)・自由な (91.2%)・庶民派的な (79.5%)・スポーツの強い (67.8%)
学生	<ul style="list-style-type: none">・伝統のある (81.3%)・自由な (79.3%)・スポーツの強い (69.0%)・グローバルな (67.2%)

4. 将来(2030年頃)強化すべき学風や特色

■将来強化すべき学風として三者に共通して支持が高かったのは「自由な」だけでした。職員同士では共通した将来像が多い一方、教員や学生の将来像はやや拡散しています（数字は回答者上位5個まで「望ましい」と選択した割合、以下同じ）。

教員	<ul style="list-style-type: none">・自由な (58.7%)・多様性のある(40.6%)・教育熱心な (33.8%)・グローバルな(29.1%)
職員	<ul style="list-style-type: none">・グローバルな(62.6%)・自由な (47.3%)・スポーツの強い (42.6%)・教育熱心な (39.3%)・社会に貢献した(35.0%)・ビジョンのある (33.6%)
学生	<ul style="list-style-type: none">・自由な (43.4%)・グローバルな(36.5%)

教職員の ブランディング・ワークショップ



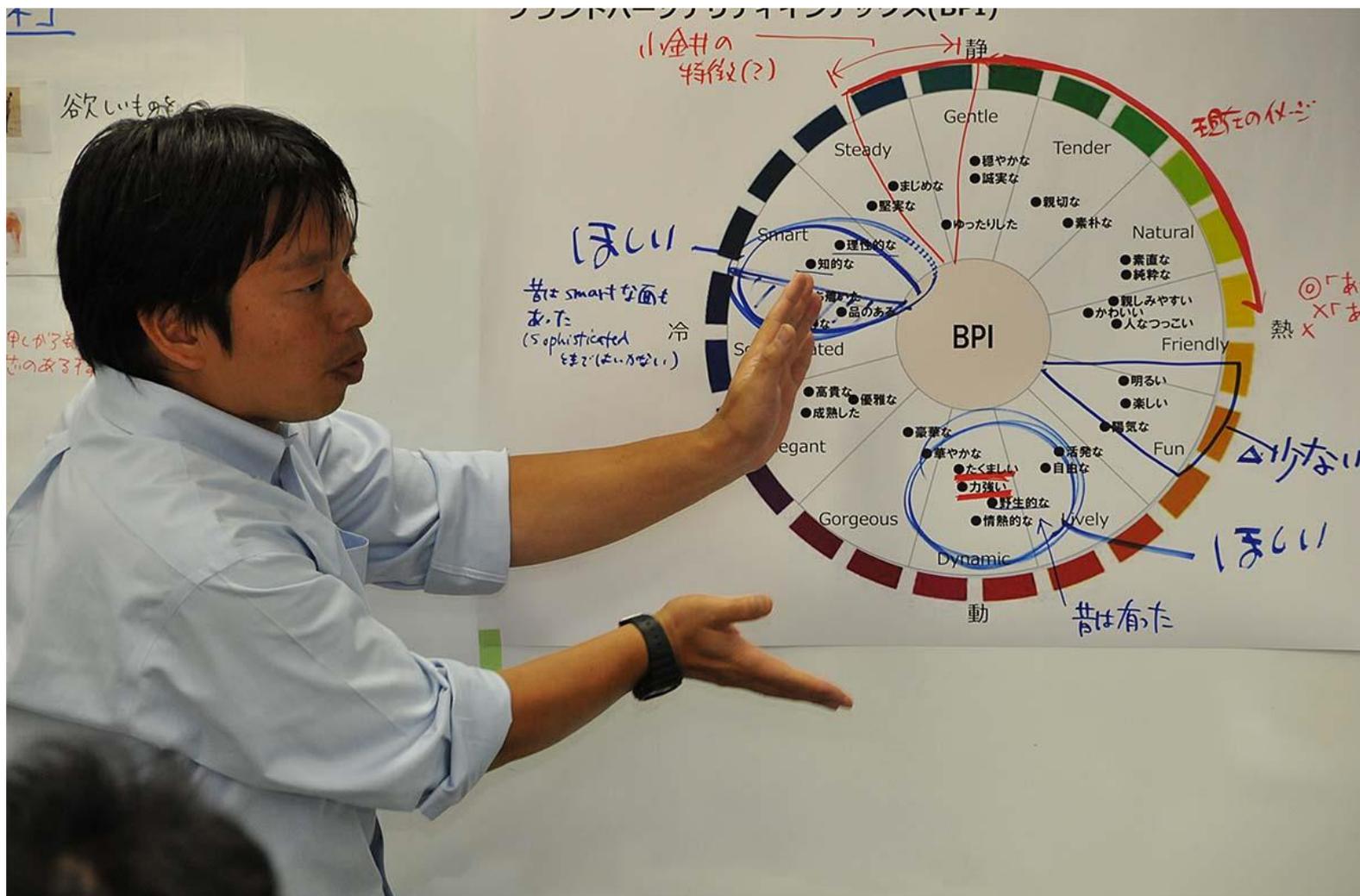
教職員の ブランディング・ワークショップ



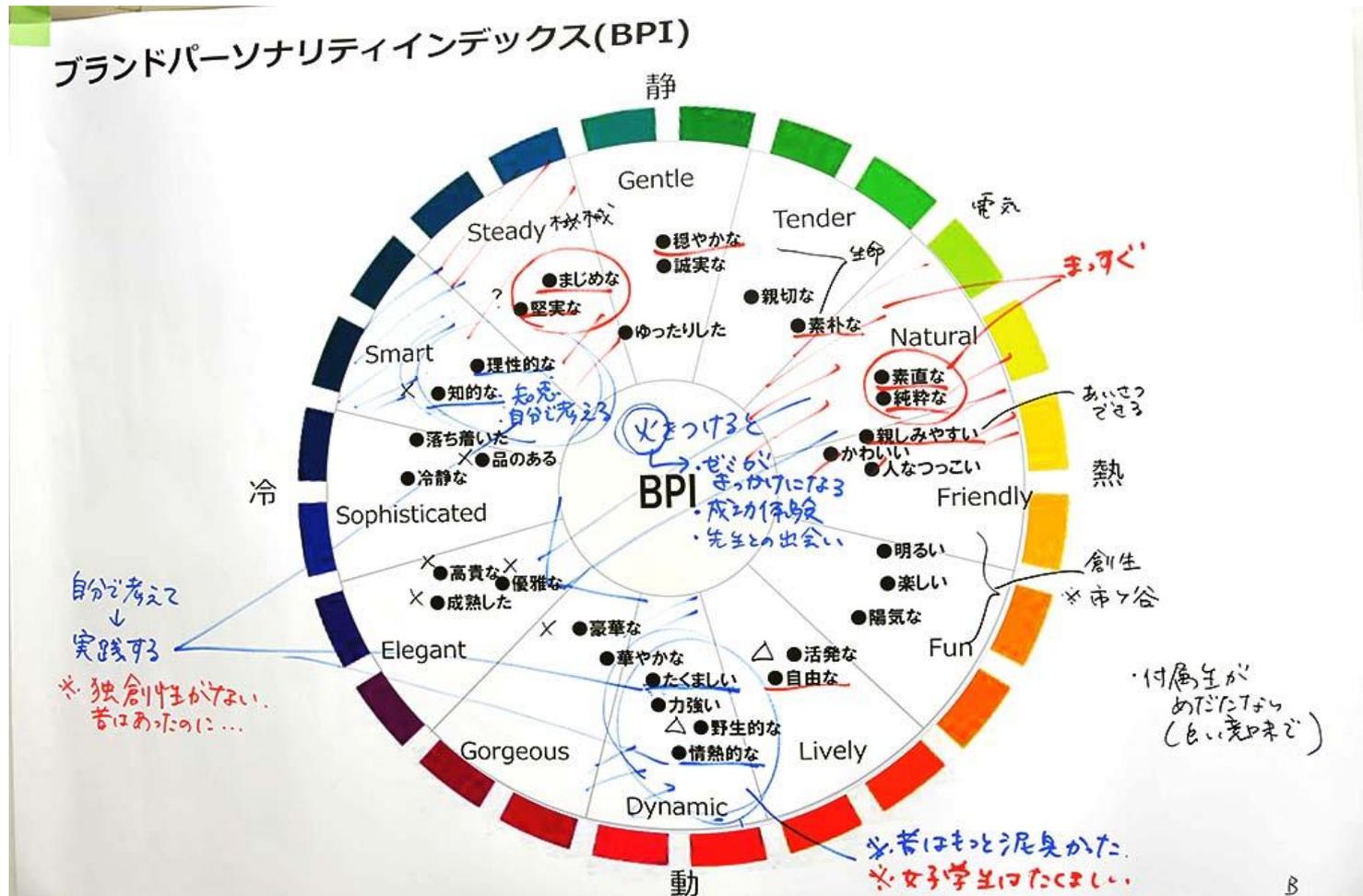
教職員の ブランディング・ワークショップ



教職員の ブランディング・ワークショップ



教職員の ブランディング・ワークショップ



教職員の ブランディング・ワークショップ



教職員の ブランディング・ワークショップ



教職員の

ブランディング・ワークショップ

Session 2-1 法政VALUE / 研究の特色

〈存在を認める/見据えている〉 (60/70年代の革新と集団)

社会派・リベラル (たけ)

市民的価値 (自由平等) 的個性

現場主義

国際日本学

127はなし日本

民族/民俗 (アイヌ)

日本の中東文化

- 協定 ⇒ あり方の人の存在 -

社会

大原社研

地域(多)

地域・地方研究

地球連携
・ポリアップ
・産学連携
・根拠学連携

予備工学部
陳月研
ブタモリ

マロミ

火タイプ
社会学部
サカルチャー

実践的
メディア研究
ex. 映像分析制作

沖文研

労働・キャリア

ボランティア

政治理論研究
思想

自治体研究

中小企業研究

能研

能楽

フーティマティ

ネットワーク型

学部心理学
理学部心理学に
関する有るべきは決
まる

法政学科
初田先生
法と社会学
デパートスタイルの
是非

生命科学部
植物学科学イノベーション

↑
(経済活動が) に効果的
・還元(小)領域/取組)

〈ジャーナルズ(社会) → 国立大学(アドバンス)〉

Session 2-1 法政VALUE / 研究の特色

〈対象として〉 現代の社会意識の最先端 *昔は冷戦の文脈を受けて、「平和」と価値観として。

サステナビリティ

フロンティア (90年代)

学会賞

学際的

大学院都市政策センター

(例)

夜断性

5学部の名刺と
専門性
いかに
細か+
(独立)

フランス

アジア

医療ロボ
災害時ロボ

抗変換組学

スポーツ

付属中高教職員の ブランディング・ワークショップ



付属中高教職員の ブランディング・ワークショップ

B 付属校の教育(正課・正課外) <特色>

正課

理念・考法

自主共同
総合

少人数

生徒の主体的な
参加

生徒中心

平和教育
(多文化性)

女子高
女子が活躍できる
レベル

全教科

バランス

グローバル・英語教育

SGH
(女子)

英語の学習意欲
が高い

留学生
(外国人)

英語の
単位数が多い

頭学首・ゼロ限

アクティブ 学習のみ

選択制の先生
(授業)

フィールドワーク
(旅行含む)
(特別講座等の)

実験

グループワーク

レポート

HR単位ではない
クラス編成
授業

教育IT

電子黒板
Pレシーブ

豊富な図書
(蔵書)

正課ではあっても 教科外の特例活動

広島長崎
修学旅行
(中学校)

沖縄
G2 (修学旅行)

中2
ホストリ?
語学研修

オックスフォード
研修 (3校同時)

3年3学期
フェスティバル
通学路の事前学習

大学教員を講師
に迎えた講座
(3) 程度

法大見学という
コリア教育

特別講座

学習との両立
・Eのクラブなども
幅広く
バランスよく

正課外

生徒会
体育祭・文化祭
クラスの目標
自主的な活動

運動部
科学的トレーニング
民主的運営

文化系クラブ
囲碁将棋
(例: 放送部)

ボランティア

生徒会
クラブ活動

スズカケ祭

サイエンス・カフェ

ブルー・アース

教員も関わる
自主活動

文化祭・
クラブ活動

↓
全国大会など
好成績

は特別活動の
多さも特徴的

職員階層別研修



職員階層別研修



職員階層別研修



法政VALUE：教育の特色/教育的価値

法政大学では多様性を許容する環境が学生に他者に共感する力を身につけさせ、自主性を尊重した実践的な教育プログラムにより、市民としての自覚と世界の現場で活躍する力を鍛える。

- 相互学習支援/ピアネット(6)
- 多様なキャンパス/キャンパスの充実・総合力/バランス(3)
- ユニークな授業/ユニークな教員・多様な価値観/多様性を許容する環境(2)
- 他大学との連携・ユニークなファシリティ・万人に開かれた教育・自由を体現・豊富な講座やシンポジウム (1)

**他者を理解し
協調する力**

- ボランティア/課外活動(5)
- 人や社会の役に立つ教育(3)
- リーダーシップ/庶民のリーダー(2)
- 市民の育成・実践的批判力(1)
- フィードバックのループ・教員向け教育・教師と生徒が学校の在り方を対話・親切的な教育・中心的でないことに取り組む (1)

**人や社会のために
考え行動する力**

- 主体性/能動性/自主性・グローバル教育(8)
- 実践型教育(7)
- 基礎/教養・企業インターン/キャリア支援・ゼミ/少人数(6)
- アクティブ・ラーニング(4)
- 手厚いサポート/チャレンジを支援するインフラ/学ぶ意欲のある学生への支援(3)
- 挑戦・社会を知る・一人で生きていく力 (1)

**世界の現場で
活躍する力**

※動物と共に挙げられたキーワードをカウント
 ※()内の数値はWSにて登場した回数
 ※WS内で挙げられた他大学のイメージを含む

法政人スピリット/パーソナリティまとめ

法政大学のイメージは「Gentle~Friendly」を中核とした領域であり、社会や人の役に立つ点や他人と協調できる点が法政人の特徴である。また、「Dynamic」と「Smart」の領域の強化を通じて、知性に裏打ちされた自信を身に付けた学生を輩出したい。

③根拠としたい領域

考える力

知性/熟考(6)
 洞察力/観察力
 (2)成熟性(1)

視座・視点の高さ

視点が高い/視野
 が広い/俯瞰(6)
 多角的・クロス
 ボーダー・興味の
 幅が多様(1)

慶應
 上智
 ICU

②取り戻したい領域

自由/ アクティブ

自由(6)
 力強さ・ア
 クティブ/
 行動力・
 きっかけ次
 第で伸びる
 (4)
 スピード感
 /瞬発力(3)

自立/自信 /プライド

孤立/独立/
 自立(7)
 悠然/動じ
 ない・自信/
 プライド
 (3)

目的志向

目的意識/
 目標達成
 (6)
 したたか
 さ/ずるさ
 (3)
 粘り強さ
 (2)

学習院

青学
 女子大

冷

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

動

明治
 早稲田

市ヶ谷・多摩
 (付属校)

熱

地方国立

熱

動

静

中央

小金井

法政大学の提供価値

法政大学は、長年培われてきた「自由」と「進取の気象」を支えとしながら、**健全な批判精神**を持って、将来の課題に取り組み、「実践知」を創出し続けると同時に、他者と協調し、社会のために行動できる**地球市民**を輩出することを通じて、「**持続可能な社会**」を推進する

研究

教育

健全な批判精神を持って提言する研究

社会的弱者への配慮を怠らない研究

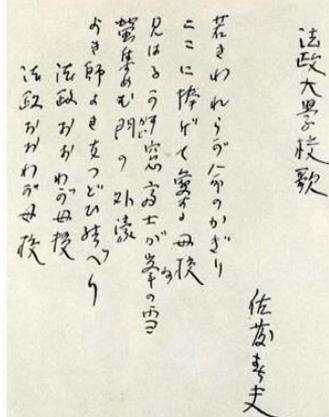
地球社会の課題を解決する研究

他者を理解し協調する力

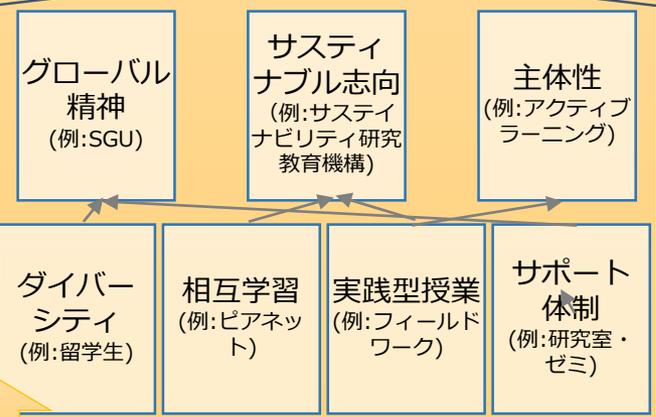
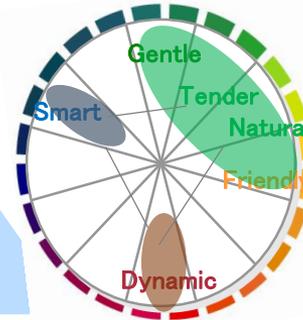
人や社会のために考え行動する力

世界の現場で活躍する力

法政大学校歌



パーソナリティ



「実践知の結集」
(進取の気象)

「多様性を許容する場」
(自由な学風)

「素直で」「親しみやすい」人柄と、内に秘めた「底力」を活かし、どのような人とも、どのような場面においても「社会や人のために」考え・行動できるひと

ブランド・プロミス (仮案)

法政VALUE

コア・コンタス

法政人

法政大学憲章（案）

「自由を生き抜く実践知」が完成！

法政大学の歴史や教員・職員・学生の
声から湧き上がってきた**「法政大学」**
らしさの結晶



- ① 法政大学の**現状から遊離していない**
- ② **他の大学とは違う「法政らしさ」**が表現されている……のでは

理解を促すための 総長によるブランディング・ワークショップ



世界で初めて、重力を感じる仮想現実アプリ を開発した岩月正見教授と



ブランディング説明会



ブランディング説明会



ブランディング説明会



ブランディング説明会

1. **総長挨拶** –なぜ本学でブランディングが必要なのか–
2. **法政大学憲章の制定プロセス説明**
–どのようにして憲章が制定されたのか–
3. **法政大学憲章説明** –憲章に込められた意味を読み解く–
4. **パネルディスカッション** –憲章をどのように業務、
教育・研究に落とし込んでいくか–
5. **ブランディング戦略2016～2018**

ブランド戦略 アクション・プラン

(個別) ブランドをつくる (のを支援する)

- 教育、研究 ← 学部、研究科、付属校、研究所 ← 各事務
- 学生、卒業生 ← 学生センター、卒連、キャリアセンター

ブランドをとどける

- 受験生 ← 入学センター、学部、研究科、付属校
- 労働市場 ← キャリアセンター、学部、研究科、付属校

ブランドをつたえる

- 媒体広報 ← 広報、
- 企画 ← 広報、学部、研究科、研究所、付属校など

物語

担い手の育成↑人事

統括↑ブランド推進室

ブランディング戦略2016～2018

戦略会議のメンバーをチームに分け、検討を進めた。

提供価値規定

- 法政ブランドを各部局でどのように使っていくか

インナーブランディング

- ブランド価値の学内共有のために

ブランドコミュニケーション

- ブランド価値を学外にどのように伝えていくか

推進体制

- ブランディングをどのように推進していくか

ナレッジ・マネジメント

- ブランディングのための情報共有

モニタリング

- ブランディングの成果をどのように検証していくか

自由を生き抜く実践知大賞

本学の学生・教職員によって取り組まれている
「法政大学憲章（自由を生き抜く実践知）」を体
現する多様な教育・研究の実践を顕彰し、広く共
有・発信することで、法政大学ブランドを更に強
化、周知していくために2017年度に新設

自由を生き抜く実践知大賞

自主マスコミ講座



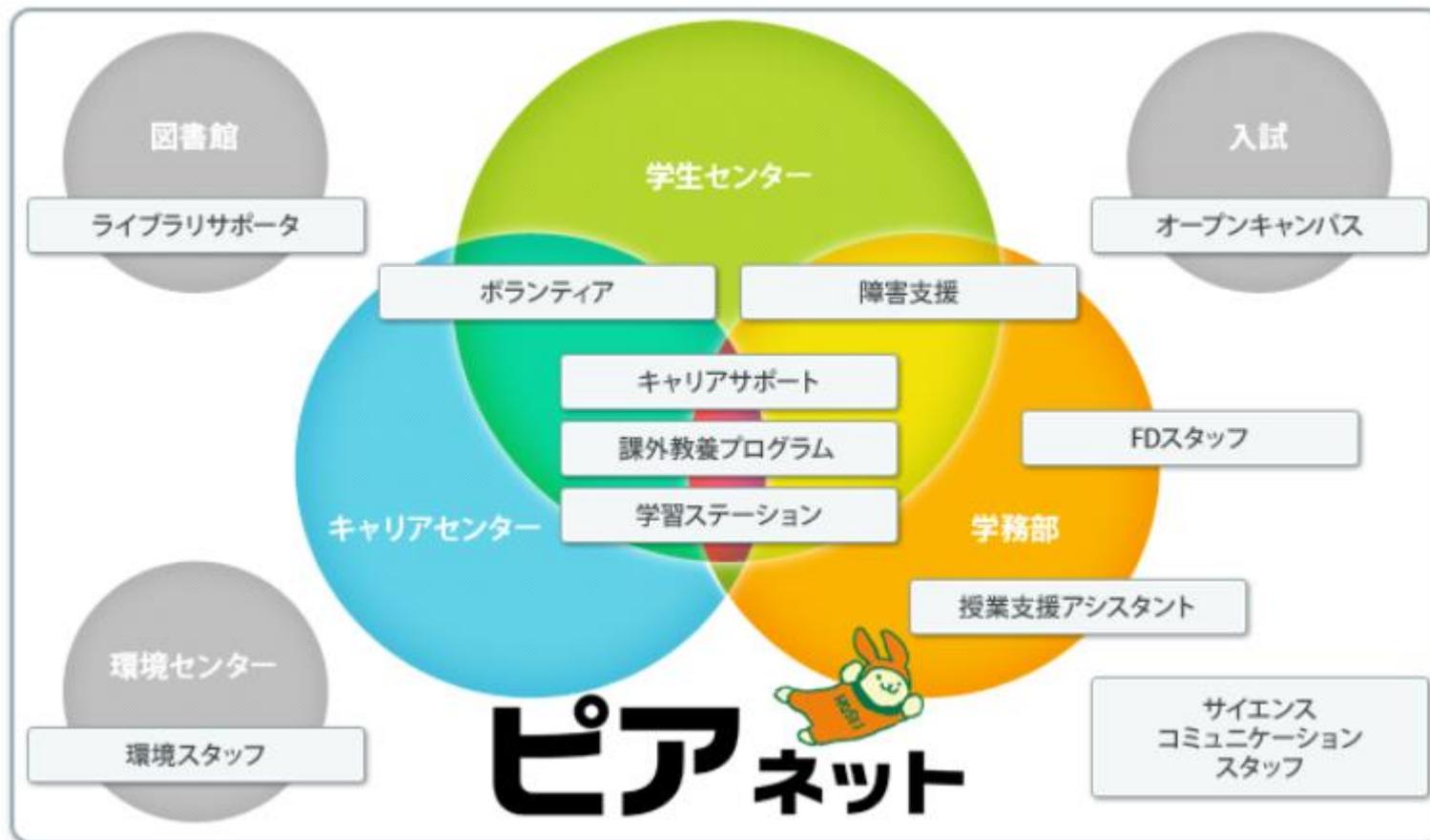
学生部門賞

オープンキャンパス学生スタッフ

- 自らの大学の良さを高校生に伝えたいと声をあげ、その思いを大学が受けとめ、2002年に市ヶ谷キャンパスで始まった
- 当時は、大学のイベントに学生がかかわるということ自体、全国的に見てもほとんど例がなく、極めて先進的な取り組みであった
- 3キャンパスすべてに広がり、現在でも学生の主体性を生かした取り組みが行われている
- いまや学生の協力なしではオープンキャンパスが成り立たないほど、大学への貢献度も大きい
- フロントランナーとしての取組である点も評価したい

学内諸活動への学生参加 ピア・ネット

（「500名を超える学生スタッフと教職員の協働で運営」）



大学公式キャラクター えこぴよん

環境改善活動推進キャラクターから発展
本学学生がデザイン

